

令和6年度全建賞 推 薦 調 書
インフラ整備の事業又は施策の部(インフラの部)

ふ り が な	あわじしんかそうじょうせいびじぎょう
1. 事業(施策)の名称	淡路市新火葬場整備事業
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	令和2年8月11日 ～令和6年3月11日(造成工事期間含む)
3. 事業費(工事費)	1,620百万円
4. キーワード	減築を見据えた一部木造の火葬場、地域資源の活用 淡路のこころを左官で表現した特殊左官仕上、レインガーデン
5. 事業概要	淡路市の市内で稼働している4施設を老朽化に伴い、1ヶ所に集約し新たに火葬場を整備した事業。 淡路市出身の左官職人 久住有生氏による特殊左官仕上を採用し、淡路の自然に囲まれながら安らかに眠ることができるような空間として計画

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(c)久住有生氏の特殊左官仕上に道路工事で出た淡路の真砂土を使用 (c)国生みの神話をモチーフとしたレインガーデン (e)待合棟の木造化	() () () ()
アピールする 2)「秀でた成果」	(c)木造化による将来の減築を見据えた構造計画及び盛土した宅地での地業工事の合理化 (f)特殊左官仕上により、会葬者に対して淡路のこころを表現	() () () ()

7. 特にアピールしたい点
【建物構造】 待合棟については木造を採用し、将来の減築を見据えた構造計画とした。木造とすることで盛土造成した宅地での地業工事のコスト縮減にも寄与している。 【特殊左官仕上】 建物エントランスホール壁面には淡路市出身の左官職人 久住有生氏による特殊左官仕上とし、淡路の自然に囲まれながら安らかに眠ることが出来るような空間として計画。故郷の美しさに心を癒し、感謝の気持ちを抱くことができるような場となることを期待している。

8. 事業を代表する写真及びキャプション



【レインガーデンからの外観】



【特殊左官仕上のエントランス】

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元（位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P I の方法 等）〕

【事業概要】

淡路市の火葬場は、2005 年に旧5町（津名町、淡路町、北淡町、一宮町、東浦町）が合併し、市域内で4施設（津名火葬場、室津火葬場、岩屋火葬場、東浦火葬場）が稼働していたが、いずれの火葬場も合併前に建設された施設であり、3施設は供用開始後約 45 年以上が経過しており長期稼働による老朽化及び、ダイオキシン類削減対策指針に対応出来ていない火葬炉設備となっていた。また、市域内に火葬場が4施設（8炉）あることは、本市の人口（約 43,000 人）に対して過大な施設数であるため、必要な建物構造や適正な火葬炉設備を備えた新しい火葬場の建設を行ったものである。

【景観と合理性に配慮した建築計画】

ふるさとの自然環境と共生する施設整備を重視し、会葬者に寄り添う火葬場を目指した。建物配置については、盛土厚が薄く沈下リスクの少ない敷地北側に建物と駐車場を配置し、南側には山林と視覚的に一体となる開けたレインガーデンを整備した。建物外観については、待合棟から火葬棟に向かってゆるやかに連続する勾配屋根で、周辺の山並みと調和したスカイラインを創出した。

【将来を踏まえたフレキシブルな計画】

淡路市は今後の人口減少に伴い、2040 年をピークに火葬件数は今後、減少すると予想されている。将来1炉1室となった場合、告別・収骨室に待合機能を持たせることも考えられる。

そこで火葬エリアは鉄筋コンクリート造で計画し、待合エリアを木造とすることで、大規模修繕や建物改修・火葬炉入れ替えのタイミングで、その時の市の情勢に見合った規模に見直すことが可能な構造を採用した。

【左官職人 久住有生氏による特殊左官仕上】

エントランスホール壁面は、淡路市出身の左官職人 久住有生氏による特殊左官仕上とし、火葬場までの道路工事で掘削された淡路の真砂土を使用し、淡路の自然に囲まれながら安らかに眠ることが出来るような空間を実現した。

【国生みの神話をモチーフとしたレインガーデン】

空、光、風、水、緑などの「美しさ」や「移ろい」を印象的に感じさせる環境装置となる庭を形成し、故人を送り出す人々の心に静かに寄り添う、静謐な空間として計画。レインガーデンは、雨水流出抑制機能を持ち合わせた象徴的な庭園空間を実現した。



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕



造成法面を含む敷地全景



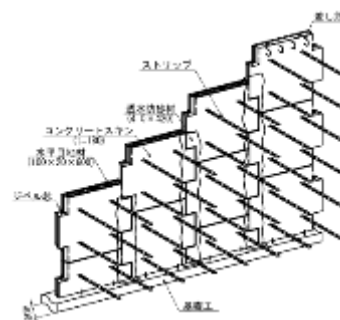
造成前の建設予定地周辺状況



造成前の建設予定地下部からの写真

【テールアルメ工法による宅地造成】

建設地は山間の中腹にある自然豊かな場所であり、周辺に人家の見えない場所を選定。必要な宅地面積を確保するため、最大 11m のテールアルメ工法を採用し、限られた敷地で必要な宅地を確保した。



テールアルメ工法イメージ

敷地全体配置イメージ



断面イメージ



9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕



エントランスホール特殊左官仕上



告別・収骨室



淡路の真砂土を使用した特殊左官仕上



構造材及び内装材に県内産材を利用した待合室



光庭に面した待合いロビー

【基本情報】

(仮称) 淡路市新火葬場新築工事

- ① 規模構造: 地上2階、鉄筋コンクリート造、一部木造
- ② 建築面積: 1,867.78 m²
- ③ 延床面積: 1,866.33 m²
- ④ 開発面積: 9,914.02 m²